

JASIS

NEWS

No. 70

2022/9/28

日本インテリア学会会報

■会長挨拶

有志連携体「IDM」の活動状況の報告

学会長 直井英雄（東京理科大学名誉教授）

有志連携体「IDM」って何だっけと思われる会員もおられると思いますので、改めて説明しておきます。「IDM」とは、「インテリア デザイン ミーティング」の略名で、インテリア関連団体の有志がゆるく連携した組織です。現在、インテリア職能団体を初めとする関連団体20数団体が参加しており、本学会も、学会内での了解のもとに、参加団体として名を連ねています。

この「IDM」のインテリア領域における意義やその結成の経緯、さらに、本学会が「IDM」に参加する意味については、会報62号に私の考えが詳しく述べてありますので、興味があれば、そちらを参照してください。また、「IDM」のホームページも公開されていますので、それも参考になります。

さて、「IDM」は結成からほぼ4年が経ちました。その運営は、主だった団体の代表からなる「コアメンバー会議」によって行われています。私もその会議に相談役という役名で参加していますので、「IDM」のその後について、会員の皆様に報告しておく必要があると思っています。以下、私から見た「IDM」の現在の活動状況です。

活動は、まだ流動的なところもありますが、ほぼ年間のスケジュールが固まってきました。いま動いているのは、やや大きなイベントが2つ、研究会が1つ、それとホームページを媒体に使ったいくつかの企画です。

2つのイベントとは、「日本プレミアムデザイン」と称する企画展と、すべての参加団体が集う交流会です。

前者は、「日本の伝統的なものづくりの技とデザインを次代へつなぐ企画展」と称する展示会で、2018年に青山のスパイラルガーデンで第1回が開催され、大盛況でした。その後、毎年3月に東京ビッグサイトで開催されるジャパンショップの場で、特別なブースを作って開催

される運びとなったのですが、2020年は残念ながらコロナの影響でジャパンショップそのものが中止になってしまいました。2021年、2022年は順調に開催され、いま、2023年の準備をしているところです。

また交流会は、参加団体が一堂に会する交流イベントで、毎年1回、年末に行われます。シンポジウムや公開座談会のあと、メンバーによるバンド演奏付きのパーティーというのが定番です。今年は12月1日に予定されています。

次に、研究会ですが、いま動いているのは「エシカルなインテリア研究会」という研究会です。私も誘われて参加しているのですが、インテリア領域におけるSDGsにかかわる職業倫理の問題がテーマです。インテリア関係者の意識調査をしたり、インテリアファブリックスのリサイクルの現状調査をしたりしています。

また、ホームページを媒体にした企画として、定期的に行われているのは、「IDMビューイング」と「IDMクラブ」という動画配信です。前者はシンポジウムなどのやや硬い動画配信で、後者はメンバーの趣味や遊びなど、やや柔らかな動画配信です。

以上が、私から見た「IDM」の活動報告です。「IDM」も、結成から4年経って、どうかその本来の役割を果たせるようになってきたといっただいでしょう。「IDM」は、どちらかというと職能団体主体の連携体で、本学会はいままでもなく学術団体ですから、目指すところは自ずから違うのですが、同じインテリア領域内の組織として、お互いに利用できる場所は利用するというのが賢い付き合い方なのかなと思っています。会員の皆様も、興味があったら、のぞいてみてください。

■令和4年度 日本インテリア学会通常総会議事録

総務委員長 松崎元 (千葉工業大学)

記録 江川香奈 (東京電機大学)

日時：令和4年6月18日(土) 13:30~14:25

会場：オンライン (Zoom)

出席者：直井、上野(義)、片山、内田、江川、小澤、金子、河田(克)、小宮、白石、高月、谷川、中井、中村、長山(洋)、棒田、松崎、渡邊<理事18名>、市岡<監事1名>、井上(徹)、大崎、小川、河崎、河村、来海、曾根、早野、黒田、馬淵<評議員10名>、岡田、式田、鈴木(儀)、西田(憲)、藤原、<正会員5名>(合計34名)

配布資料：

1) 2022年度(令和4年度)日本インテリア学会総会資料

議事：

1. 開会宣言・会長挨拶(直井)

前年度に引き続きオンラインでの開催となった。開会宣言の後、逝去された西出副会長、加藤理事への黙祷を行った。直井会長からの挨拶の後、白石理事の進行で議事に移った。

2. 定足数の確認(白石)

出席者は34名、委任状89通、合計123となり、総会の成立に必要な定足数(正会員307名の1/4以上:会則15条)を満たしていることが確認された。

3. 議長団選出(白石)

議長および書記の選出に際し、総務委員会案により議長を直井会長、書記を江川、議事録署名人を金子理事、早野東北支部長の2名に依頼し、直井会長の進行により議事に移った。

4. 第1号議案：2020年度(令和2年度)決算、2021年度(令和3年度)予算における繰越金の額訂正の件(松崎)

- ・松崎総務委員長より、2021年度(令和3年度)総会において承認された繰越金の額の訂正について説明がなされた。793,566円と記載されていたが、確認ミスにより計上されていなかった306,210円を追加し、訂正後の額は1,099,776円となる。なお監査について問題はなかった。
- ・以上の説明により、2020年度(令和2年度)決算、2021年度(令和3年度)予算における繰越金の額訂正について、資料の通り異議なく承認された。

5. 第2号議案：2021年度(令和3年度)事業報告および収支決算報告の件(松崎)

- ・松崎総務委員長より、2021年度(令和3年度)の事業報告および決算報告(案)について、資料に基づき説明がなされた。

- ・監査結果は問題ないことが報告された。(江川総務委員が報告書を代読)

- ・以上の説明により、2021年度(令和3年度)の事業報告および決算報告(案)は、資料の通り異議なく承認された。

6. 第3号議案：2022年度(令和4年度)事業計画および収支予算(案)の件(松崎)

- ・松崎総務委員長より、2022年度(令和4年度)の事業計画および収支予算(案)について、資料に基づき説明がなされた。
- ・2022年度(令和4年度)の事業計画および予算(案)について、資料の通り異議なく承認された。

7. 報告1：2022年度(令和4年度)の役員について(松崎)

- ・松崎総務委員長より、資料に基づき説明がなされた。
- ・西出副会長逝去のため、副会長は上野副会長・片山副会長の2名体制となる。任期は残り1年であることから、補充は行わない。
- ・東北支部長は、松村光太郎氏に代わり早野由美恵氏が就任する。早野氏は支部長として理事にも就任する。
- ・組織図には、新たに「デジタル化推進委員会」を追加する。副会長の担当部門については、「運営部門」を上野副会長、「研究部門」「支部部門」を片山副会長が兼任する。
- ・名誉会長・名誉会員は、故人・退会者も含めて掲載している。故人の場合も氏名に「故」と記載しない方向で統一した。
- ・名誉会員として、片山勢津子氏、白石光昭氏の2名が総務委員会より推薦され、承認された。

8. 報告2：本年度の大会開催について(市岡)

- ・10月22、23日に日本大学工学部(郡山キャンパス)で、オンラインにて行う。
- ・日本建築学会賞を受賞した速水清孝氏に講演をお願いしている。
- ・1日目学会発表の予定、2日目の見学会はまだ未定である。見学会の開催方法は模索中である。

9. 報告3：アーカイブ化委員会について(小宮)

- ・アーカイブ化委員会の小宮委員長および井上委員より、事業報告があった。2022年5月末をもって、論文集1-30号および梗概集1-30号のJ-STAGEへの登録作業が完了した。
- ・J-STAGEに掲載されている内容で、誤字等があれば報告願いたい。
- ・今後のアーカイブ化の担当については総務委員で協議していただきたい。
- ・登録は複雑な作業ではないので外注をする必要はないと考えられる。

10. 報告4：ホームページの整備について(直井)

- ・学会のホームページは、近年の使用状況に合わせ、メンテナンスや見直しが必要な状況である。
- ・新たなホームページを開設するにあたり必要な費用を、学会の通常予算から使用するの難しいの

で、各支部で使いきれずに残っている支部活動費があれば、無理のない範囲で寄付をしていただきたいことがお願いされた。

11. 報告5：教育部会の活動について（金子）
 - ・今年度の活動内容としては、全国の工業高校のインテリア科の現状を調査・把握する予定である。
 - ・見学会、セミナーの開催も検討している。
 - ・論文書き方セミナーのまとめができたので今後学会で報告する。
12. 連絡1：名誉会員の推挙について（上野）
 - ・各支部で活躍された方がいれば推挙していただきたいことが周知された。
13. 連絡2：広報委員会からのお願いについて（棒田）
 - ・会報第70号に亡くなられた先生への追悼文を掲載する。今後、関係者に執筆を依頼する。

以上

■第34回大会（福島）開催概要

大会実行委員長 市岡綾子（日本大学）

本年度の大会は総務委員会のご支援を賜り、日本大学工学部を拠点に10月22日（土）～23日（日）に開催致します。コロナ禍の状況を鑑み、昨年度同様にオンラインライブ方式で実施します。震災から10年余り経過した福島の実情をご覧いただきたいところではございますが、残念ながら現地での見学や懇親会は開催せず、リモートによる研究発表会、記念講演会及び見学会を行います。Zoomによる研究発表会のスムーズな進行には、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

記念講演会では、日本大学工学部教授の速水清孝先生に、昨年度日本建築学会賞（論文）を受賞された論文内容に基づき、「資格をめぐる葛藤－日本の建築家と建築士－」と題してご講演いただきます。オンライン見学会では、福島県出身建築家の大高正人氏が設計された福島県立美術館や三春町内の作品を中心に、福島県内の建物をご紹介します。

卒業作品展は学会WEBサイトにて約3ヶ月間開催しますので、多くの皆様に関覧いただきたく存じます。

皆様の、ご参加をお待ちしております。

■10月22日（土）10：30～16：00

研究発表会・卒業作品展（～2023.1.22）

開 会 式<Zoom開催>

10：30～10：45

研究発表会<3会場；Zoom開催>

11：00～15：30

卒業作品展<学会WEBサイト開催>

2022年10月22日～2023年1月22日

理 事 会<Zoom開催>

16：00～17：00

■10月23日（日）13：10～16：30

記念講演会・見学会

記念講演会<Zoom開催>

13：10～14：40（12：50受付開始）

テーマ；資格をめぐる葛藤－日本の建築家と建築士－

講 師；速水清孝（日本大学工学部教授）

見 学 会<Zoom開催>

15：00～16：30

テーマ；福島の建築紹介－福島出身建築家大高正人の作品を中心に－

講 師；市岡綾子（日本大学工学部専任講師）

表彰式・閉会式<Zoom開催>

16：35～17：00

■日本インテリア学会ホームページにアクセスいただき、大会情報をご確認ください。

<http://www.jasis-interior.jp>

■追悼 故加藤力先生を偲んで



撮影者：上野義雪

□加藤力先生の訃報に接して

直井英雄（日本インテリア学会会長）

加藤先生の訃報を聞いたとき、まさかと思いました。というのも、リモートで開催された昨年の関西大会の席で、言葉を交わしたばかりだったからです。

昨年の大会は、コロナ禍の只中であつたため、リモートで開催され、二日目の見学・講演会もその後の閉会式も、甲子園会館からのリモート配信ということになりました。その閉会式の席で、加藤先生がご自宅からリモートで挨拶をしてくださったのです。私同様IT弱者である先生は、なかなかZoomが繋がらず、苦勞されたようでしたが、やっとつながって、初めてのリモート大会の無事終了を喜んでくださいました。もちろん、いつもと変わらず、お元気そうでした。そのあと、何か月もしないうちの訃報だったのです。正直、信じられない思いでした。

加藤先生とは、学会発足のころからのお付き合いですから、もう30年以上になります。私とほとんど同年配

で、当時から、学会の中では若手として、一緒にいろいろな議論にも参加しましたし、あれこれ体を動かしてもきました。先生のお人柄にもよるのでしょうか、学会を盛り上げようとする仲間として、気持ちよくお付き合いさせていただいたことに、いまは感謝するばかりです。

先生は長く、京都工芸繊維大学に勤めておられましたので、関西が本拠です。私は関東ですので、全国組織としての学会の運営を考えたとき、会長を務めている今になって思えば、頼りになる心強い仲間が副会長として関西にいてくださったということが、どれだけ安心感につながったか、改めてありがたく思っています。

会報の冒頭に、会長挨拶という記事があるのですが、先生から「いつも楽しみに読んでいますよ」というお言葉をいただいたことがあります。本当にやさしい先生なのです。もっともっと一緒に仕事をしなかったと、つくづく思います。

いまは、先生のご冥福をお祈りするしかありませんが、どこか高いところから、きっと学会を見守ってくださっているものと思います。加藤先生、これからも応援、よろしく願いいたします。

□加藤力先生を偲んで

小宮 容一

先生とお会いしたのは、35年ほど前だったでしょうか。

日本インテリアデザイナー協会の会員として、支部会議かの折りに名刺交換したのが出会いだったと思います。先生は既に京都工芸繊維大学助教授であり、年齢も近く、私も大学勤務でもありで、親しくお付き合いすることになりました。当会設立の折りには、先生に勧誘戴いてメンバーとなりました。

一番の思い出は、当会の第18回（2006年）大会を宝塚造形大学梅田キャンパスで開催した時、先生が大会委員長、私が副委員長、大勢の関西会員に助けてもらって成功裏に終えることができました。準備期間、月1、月2で会議して、後飲み会して、インテリアや学会のことをいろいろ話しました。楽しかったし勉強にもなりました。お互いにパワーがあったし良かったと思います。

次の思い出では、樋口治先生、山崎晶先生夫婦、八十常充さん夫婦、私夫婦7名で、芦屋から2台の外車連ねて、大津の先生自邸（ご自身の設計）を尋ね、三井寺の満開の桜をご案内して戴いたことです。その時奥様にお会いしました。先生の堅実な性格と、堅実なご家庭を感



右端が加藤力先生

じた時でした。

先生に私が感服するのは、常に時代の先を読む能力です。「子供達にインテリアを教育しなくては」と言われたのは、2000年前だったのでしょうか。研究会をつくって、小学校教員のための教読本を作りました。今も、日本インテリアデザイナー協会では、子供達に「あかり」や「私のへや」のワークショップを行っています。同じ頃、日本インテリアデザイナー協会発行の「ECO INTERIOR DESIGN BOOK」の執筆・編集に係られ、エコデザインについて、サステイナブルデザインについて熱く私に語りかけられました。国連が定めた目標SDGsは、2015年発です。15年以上は先見の明です。

常に、先生の脳・思考は先へ先へと進めておられたと思います。今は、黄泉の世界におられるでしょうから、何も考えずに、安らかになさって下さい。

合掌

■追悼 故西出和彦先生を偲んで



撮影者：上野義雪

□西出和彦先生の早すぎのご逝去を悼む

直井英雄（日本インテリア学会会長）

西出先生の訃報は、本学会にとっても、まさに青天の霹靂でした。学会の研究担当副会長という、いわば学会のミッションの中心におられた方が、あの若さで急に亡くなられたのですから。これから先の学会で、ますます重要な役目を担ってくださるものと何の疑念もなく期待していた私にとっては、茫然とするばかりでした。本当に、言葉を失いました。

追悼文を書くにあたって、西出先生との交流の思い出をたどろうとしましたが、多すぎて何を取り上げたらよいか迷っています。年代的な順序も定かではなくなっています。とりとめのない思い出の羅列になってしまいそうですが、ご容赦ください。

西出先生は、私と同窓の10期後輩で、本学会二代目会長の高橋先生の一番弟子です。もちろんインテリア学会発足前からの知り合いですから、もうかれこれ40年前になるのでしょうか。当時は、建築学会の建築計画部門の「人間工学」や「計画基礎」で研究発表をする間柄でした。西出先生は、高橋先生の一門として、個体間距離や個体領域の研究に精力的に取り組んでおられました。その成果は、いまま建築学会の建築設計資料集成に載って

います。

私は、建築日常災害の研究をしていましたので、西出先生とは、人間工学という領域で専門が重なっています。特に、私の研究室で、空間内の人間集団の密度分布について研究をしていた時は、西出先生たちの個体領域の研究をずいぶんと参考にさせていただきました。また、この研究で、私の研究室の学生がドクターの審査を受けるときには、その研究領域の第一人者である先生に、外部審査員を務めていただきました。

建築学会の「コンパクト建築設計資料集成 [インテリア]」のときも一緒に仕事をさせていただきました。当時、資料集成の委員長であった高橋先生のお声がかかりで、インテリアのコンパクト版をまとめるという仕事でした。もちろん建築学会の出版物ですが、私や西出先生を含めたインテリア学会のメンバーを中心に、実質的にはインテリア学会の仕事としてまとめ上げたつもりです。このときも、西出先生の大いなる協力をいただきました。

また、忘れるわけにいかないのは、先生が、二代目高橋会長の時代に、本学会の事務局長を務めてくださったことです。今思うと、現役の東大の先生を勤めながら、よくこんな激務までこなされていたなど、改めて頭が下がる思いです。

先生のおられなくなった学会はダメージが大きいのですが、皆様の協力を得ながら、これから先もつつがなく運営をしてまいりますので、どこか高いところから見守っててください。これまで、本当にありがとうございました。

□西出先生の思い出を業績の一端から

上野義雪

西出和彦先生の突然の悲報に接し心よりお悔やみ申し上げます。

先生と私は、1988年千葉工業大学の工業デザイン学科設置にともなって赴任した教員仲間です。学科設置当初は教員毎の研究室はなく、職員室の様に全教員が一部屋に在室する生活がしばらく続きました。初年度は1年生の対応と教授総会の出席が主たる職務で、職員室での新任教員同士の会話は相互の距離を近くするよい機会であったと思っています。

西出先生は、千葉工業大学に10年間勤務され、1998年に東京大学へ戻られました。

西出先生とは1980年日本建築学会刊行の「建築設計資料集成3」の専門委員として執筆をいたしました。先生は、対人距離や人の集合などをご専門に担当されました。

翌1981年発足の日本建築学会計画委員会建築人間工学小委員会では、裏方の幹事役として運営や手書きによる小委員会ニュースの発行など、現在の小委員会が存在するのは西出先生のお陰であると言っても過言ではありません。

1989年6月に設立された日本インテリア学会事務局は、設立当初より千葉工業大学上野研究室に設けられ、

その後ミサワホーム総合研究所を経て2004年12月に東京大学西出研究室に移転することになり、2012年3月までの長い間、西出先生には負担をかけてしまいました。

千葉工業大学当時、西出先生と一緒に岡村製作所との共同研究で、オフィスの島型のデスク配置に適するローパーティションの高さなど、対人距離の視点から大学のIDドームで実験を行ったことをよく覚えております。

遡ると国鉄時代の1977年に、「旅客サービス設備近代化の研究委員会」（委員長小原二郎先生）において、通勤型電車における乗客の乗車様態の調査を山手線車輦内において乗客の立ち位置や対人距離などを調べたことがあります。当初は車輦の天井に設置したカメラで記録する計画があり、カメラの設置治具ができあがった時点で事情があつてカメラの設置には至らず、調査員配置による記録撮りになりました。この時、西出先生が大の鉄道マニアであることを知り、懐かしく思い出されます。

西出先生と一緒にする会議では、大学ノートに鉛筆でメモをとっておられるお姿を今でも私の臉に強く焼きついています。先生はお酒をこよなく愛され、学会大会や総会後の懇親会で嗜んでおられる姿が印象的でした。

昨年末の総務委員会会議がリモートで開催され、西出先生は体調を崩されて退院後の参加でした。画面を通しての先生の赤ら顔が気になり、身体にはくれぐれも気をつけるようにお伝えしたのが、先生とお会いする最後となつてしまい、残念でなりません。

6月末開催の「西出和彦先生を偲ぶ会」に出席をさせていただきました。千葉工業大学に在職中の写真を探し、会場で動画として投影されました。写真はその中の一枚です。

西出先生の当学会における多くのお力添えに対して心より感謝と御礼を申し上げ、心よりご冥福をお祈りいたします。

■追悼 故日原もとこ先生を偲んで



撮影者：上野義雪

□日原もとこ先生のご逝去を悼む

直井英雄（日本インテリア学会会長）

日原もとこ先生は、女子美術大学をご卒業後、通産省工業技術院産業工業芸試験所技官、同製品科学研究所主任研究官を歴任され、その後、東北芸術工科大学の教授と

してデザイン系の研究教育に従事されました。専門は環境色彩学です。

先生は、日本インテリア学会発足時からの重鎮で、この学会の骨格をつくったメンバーの一人とあってよいでしょう。

学会創設当初のころを思い出してみると、初代会長の小原先生が、よく「学会はできたけれども、まだヨチヨチ歩きだから」とおっしゃっていましたが、学会の骨格もまだはっきりとはできていない時代でした。その頃は、学会の主要メンバーの会議が頻繁にひらかれ、学会の組織や行事について、侃々諤々、議論されていたことを記憶しています。日原先生もその一人として参加されていました。

私は、すこし遅れて、小原二郎先生に誘われて本学会に入ったのですが、若手の一人として、その会議にも参加させていただき、いろいろとお手伝いをさせていただきました。会則を作るワーキンググループで、たたき台を作ったことも思い出します。日原先生も含め、重鎮の先生たちには、いろいろな面でご指導をいただきました。

また、第15回の大会が東北芸術工科大学で開かれたのですが、日原先生が中心的な役割を果たしてくださいました。縄文の精神をテーマとしたユニークな学会で、蔵王のふもとにある東北芸術工大のロケーションもすばらしく、今でも記憶に残っています。

日原先生に最後にお目にかかったのは、確か3年前の総会でした。コロナのため、一昨年の総会が中止になり、昨年も本年も総会がリモート開催となりましたが、その前の年のリアルで開催された最後の総会に、日原先生が久しぶりに顔を出してくださいました。「ちゃんとやっていますね」という笑顔で、総会を見守ってくださいました。

お元気で、もっともっと学会を見守ってくださるものと思っていたのに、誠に残念です。これからも優しい笑顔で、どこか高い場所から本学会を見守っててください。日原先生、長い間ありがとうございました。

□追悼 モコちゃん（日原もとこ女史）

岩井一幸

モコちゃんの愛称で皆に親しまれていた日原もとこ女史のコロナ禍での突然の訃報に接し、言葉もありません。ただご冥福をお祈りするばかりです。

モコちゃんは通産省産業工芸試験所の私の1期先輩の昭和36年女子美を出ての入所です。下丸子の古い庁舎の2階の意匠1部で、私は方法もよくわからないで人間工学的研究や商品分析を指向する意匠分析課に所属し、モコちゃんは、奥の部屋の意匠2部に所属し、クラフト製品のデザインに従事していました。当時、試験所の紹介をニュース映画ですることになり、商品試験の被検者にモコちゃんになり、今日のようなビデオではなく、16mm映画撮影でした。完成作品を見に皆でわざわざ映画館に行ったところ、モコちゃんの顔がシネマスコープの

画面いっぱいに出てきたのにびっくりしたのを覚えています。華がありました。

私が外部にでて、産業工芸試験所の名称が変わった製品科学研究所に戻った際に当時の出原栄一デザイン課長のもとで、モコちゃんと同じ課に所属することとなりました。モコちゃんは、当時は色彩学を軸とした研究をしていましたが、当時の課員は石渡日佐夫、堀田明裕、渥美浩章、飯田健夫、斎藤幸子らで、みな若かったので、研究よりもレクリエーションで、野沢や岩岳にスキーにいったことの方をよく覚えています。

創立時の東北芸術工科大学に製品科学研究所より転職してから、大学のある山形で2度ほど、非常勤講師で行った際に会って以来、多忙にまぎれ、電話やメールで話はすれども、お会いしたことはなく、今回の訃報に接しました。大学定年後も山形をはなれることなく、自動車で動き回っていたのでしょう。下丸子の時代から、特に筑波では、どこに行くにも自動車で、歩いて足腰を鍛えないと長生きできないよとよく話しましたが、人生急ぎすぎです。合掌

□日原もとこ先生を偲んで

東北支部 早野由美恵

日原もとこ先生との出会い、それはこの日本インテリア学会でした。

1996年全国大会が母校の日本大学で行われた際、恩師にスタッフとして呼ばれ着座した隣の席にいらしたのが日原先生でした。その後自分の運命を変えるほどに深いつきあいになり、そのインテリア学会の会報に先生の追悼文を記載することになるうとは今とても複雑な想いです……

その時に話した話題は非常にマニアックな話で、その後の先生との行動を決定づけるもので「出会いは必然であった」と確信する内容だったのですが、今回は先生の山形での偉業についてお伝えしたいと思います。

日原先生は1992年に山形県の東北芸術工科大学の教授に就任され、インテリア、色彩、景観、民俗学等さまざまな分野で活躍されました。日本インテリア学会の東北支部の設立にご尽力され初代支部長を歴任し、東北での活動の基礎を築かれました。

そして、その独特の感性と正義感に満ち溢れた先生の山形県での個性的なエピソードは、盛りだくさんです。

現在日原先生のご遺骨はご家族の霊園に納められていますが、一部は山形県作谷沢（曼荼羅の郷）のお寺に保管されています。先生が最期までまちづくり、景観づくりでエネルギーを注いで来られた地域の方々がこの地に先生のお墓を建てたいとご遺族へ分骨を申し入れ、来年には完成する予定だそうです。あまり語られてこなかったこの地の歴史に1600年北進してきた上杉軍と最上義昭（徳川軍）配下の作谷沢城主、江口軍による慶長出羽合戦の壮絶な死闘が行われ、この小さな地域を総動員した500名余りの江口軍は圧倒的に数を誇る上杉軍に1,000名以上の死傷者を与えたものの、壊滅したという史実があります。曼荼羅の郷と命名された（命名は作谷沢小学校

長を務められた地域史研究家の故・鳥兎沼宏之氏) この地の美しい景観を守るため、大きな権力に立ち向かい、守り切った先生を住民だけでなくこの土地で眠る英霊たちも受け入れてくれたのではないかと思います。

日原先生は生前よく「自分は歴史の中で埋もれていった人たちのことを伝える役割を担っている。」とおっしゃっていました。そのような先生と行動を共にすると、設計の仕事で寺社の計画の際、ご住職に「夜のお寺での打ち合わせはご勘弁ください。」と真剣に願ひ出た程の怖がりの私を、先生は日本各地や時には海外へ民俗学やその土地の色彩の調査に連れて行ってくださいました。しかし、ほとんどがそのような(夜の調査は勘弁して……というような)土地でありました。

また、行動を共にしながらいろいろな地域の街並みを見て、その土地ならではの景観や色彩に常に心を配られ、騒色公害や画一的な街並みに対し強烈な意見を訴える先生の話に論されながら、視覚的環境がいかに人間にとって大切かを理解し、時には人としての生き方をも示唆されて来たように思います。

猫好きでは自分の方が上だと、お互いに譲らなかった先生とのさまざまな思い出がまだ辛い日々ですが、日原先生のご冥福を心からお祈りいたします。

■令和4年度委員会だより

□総務委員会

委員長 松崎元 (千葉工業大学)

今年の4月より総務委員長を仰せつかりました千葉工業大学の松崎元(まつざきげん)です。前任の白石光昭先生には引き続き総務委員としてご指導いただきしておりますが、ここ数年の大変な社会状況の中、委員長を務められたご尽力に深く感謝申し上げます。会長、副会長をはじめ、委員の皆様のご協力、オンライン会議を重ね、何とか様々な調整業務にあたっておりますが、至らないことも多く皆さまのご協力が頼りです。どうぞよろしくお願い致します。

コロナ禍の影響もあり、学会活動のデジタル化、オンライン活用など、活性化につながる施策が必要ですが、今年度の総会にて承認いただきました「デジタル化推進委員会」については、今後、総務委員会でも議論を深めながら、役割と体制を整え、委員の皆様が活動しやすい環境につながればと考えております。今後ともご指導、ご協力をお願い申し上げます。

□国際委員会

ペリー史子 (大阪産業大学)

特に報告ありません。

□論文審査委員会

委員長 渡辺秀俊 (文化学園大学)

1) 論文報告集について

日本インテリア学会論文報告集32号は、2022年3月末に発刊されました。応募していただいた会員の皆様、査読していただいた査読委員の皆様には、厚く御礼申し上げます。論文報告集33号については、9月30日を締め切りとして、現在、論文募集中です。多くの皆様の応募をお待ちしています。

アジア地域のインテリア系の学会論文集AIDIA Journalについては、今年も募集情報が入手できていません。AIDIA Journalが最後に発刊されたのは2018年度ですので、どうやらAIDIAでは2019年度以降はJournalの発行はしていないようです。

2) 委員会組織について

たいへん残念なことに、論文審査委員会の委員でいらした加藤力先生が昨年(2021)の末に、西出和彦先生が今年(2022)の春にご逝去されました。両先生には長きにわたって本学会の論文審査業務にご尽力いただきましたことに深く感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

現在、論文審査委員会は、渡辺秀俊委員長、村井裕樹副委員長(JASIS論文担当)、片山勢津子委員(JASIS論文担当)、橋本都子委員(JASIS論文担当)、高橋正樹委員(AIDIA論文担当)の5名で運営しています。論文審査業務の公正性を維持するためにも、欠員2名の補充について検討しています。

3) 今後の課題

近年、多くの学会でJournalのデジタル化が進んでいます。本学会の論文報告集のデジタル化(J-STAGEへの掲載)についても、総務委員会等で検討していただけたらと思います。また、AIDIAとの連携を学会として今後どうしていくのかという点についても、国際委員会等でご検討いただけましたら幸いです。

今後とも、委員の皆様と一緒に日本インテリア学会の発信力を高めたいと考えております。引き続き委員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

□広報委員会

委員長 棒田邦夫 (金沢学院大学名誉教授)

学会の情報発信媒体として会報の発行をしてまいりました広報委員会ですが、その業務にホームページ運営・管理も加わることになりました。これまでは松崎先生がホームページの更新作業をしてくれておりましたが、今年度より総務委員長としての業務をこなさなければならなくなりましたので、ホームページも会報と同じく学会の情報発信媒体であるということから広報委員会が業務を引き継ぐことになりました。当委員会ではこれを機にもっと会員が活用しやすいホームページを目指そうと新しくホームページもリニューアルすることになりました。現在、来年度より運用ができるようにデザイン作業を進行中です。

□東北支部

支部長 早野由美恵

東北支部におきましては前支部長に変わり、2019年度まで支部長を務めておりました早野が本年度の支部長の着任ことになりました。どうぞ宜しくお願いいたします。その東北支部の今後の運営について大事な支部総会の準備を整えている最中、東北支部の設立にご尽力くださった、初代支部長の日原もとこ先生が3月2日にご逝去なされました。誠に残念でいまだに信じられないことですが、ここに日原先生のご冥福を心からお祈りいたします。

そのような状況の中、東北支部では3月18日に支部総会と関連事業である講演会をオンラインで行いました。講師は数年前のデビット・ボウイの日本での展示空間デザインや数々のエンターテイメント空間、展示を成功させ、多くの賞も受賞し、現在は新たな企画やそれに伴う空間デザインのディレクターとして活躍なさっています。(株)乃村工芸社 グループ (株)ノムラメディアスクリエイティブディレクター/統括部長 高橋文朋氏) でした。

オンラインのメリットとして、東北だけではなく全国の会員の皆様、先生方にご参加いただきました。この場を借りて御礼を申し上げます。どうもありがとうございます。

東北へ移ってから、東京で開催されることの多い様々な集まりへ参加するために、時間や金銭的な負担が地域によって大きな差があることを実感したのですが、移動時間や天候等を心配せずに参加できることができる、ありがたい時代でもあることも感じました。

東北支部ではこのシステムを活用し、今後も勉強会や交流会を開催していこうと思っています。

今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

□関東支部

支会長 内田和彦 ((株)オカムラ)

特に報告ありません。

□東海支部

支部長 中井孝幸 (愛知工業大学)

コロナ禍で支部主催のイベントの中止が続く中、2022年4月12日(火)に対面式とオンライン(Zoom)のハイブリットにて、第1回支部役員会を開催し、参加者は14名となりました。昨年度の役員会から、「話題提供」を行うことにしており、この日は岐阜高専・准教授の清水隆宏先生に「旧羽島市庁舎の保存活用に向けた活動」をお話して頂き、解体の危機にある坂倉準三設計の旧羽島市庁舎について、専門家による議論の経緯や市民の活動などたいへん興味深い内容で、意見交換も数多く交わされました。その後、2022年7月に開催予定の支部総会の議題整理を行い、支部事業は新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら検討すること、東海支部の会員動向や

中部地方でのイベント開催が報告され、今年度の支部役員会冒頭の「話題提供」の担当予定を決めました。

2022年7月2日(土)に対面式とオンライン(Zoom)にて第2回支部役員会を開き、その後支部総会を開催し、参加者は13名でした。役員会では、総会に係る資料の確認、今年度の支部事業について協議しました。また、理事会報告として、学会ホームページのリニューアルの費用負担は、支部から寄付を募りたい旨を報告しました。支部総会では、事業報告、収支決算書報告、会計監査、事業計画、収支予算書について審議し、承認されました。今年度の支部事業は、新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら活動を行うことになり、対面式の見学会は実施する方向で企画することになりました。

総会後は、私から「最近の図書館の動向」と題して、日本国内の図書館で行った利用状況の調査分析から得られた知見や地域の拠点として整備された図書館について、基調講演を約60分間行いました。配付資料は、二次使用の問題があるため会場のみ配付とし、オンライン参加者へ資料配付は行いませんでしたが、講演後に質疑応答を行いました。

依然としてコロナ禍ではありますが、支部会員へのサービス向上はもちろん、地域社会との交流活動にも取り組んでいきたいと思っています。

□北陸支部

支部長 棒田邦夫 (金沢学院大学名誉教授)

北陸支部は、次年度支部長について長山信一氏(富山大学芸術学部元教授)を推薦し、支部会員の過半数の賛成で承認されました。なお、長山氏は1期3年までとの申し出があり、3年後を見据えて支部会員の了解を得て副支部長を置くこととしました。副支部長には佐伯高基氏(高岡工芸高校教諭)の承諾を得て、副支部長をお願いすることになりました。次年度からは新しい体制で事業が展開します。私は側面より協力し、支部の発展に尽くしていく所存です。よろしく申し上げます。

□関西支部

支部長 中村孝之 (生活空間研究室)

今年度は、コロナの影響はありますが、施設の受け入れが再開していますので、見学会を開催しました。最近、いくつかの奈良にゆかりのある建物がオープンしており、その中から個人で訪問してもしっかりと見学しづ





らい企業・公共施設に絞り、「今注目の奈良インテリアツアー」というテーマで、建物やインテリアの見学と、その施設での取り組みを知るツアーを実施しました。

訪問先は、「奥村組」の「奥村記念館」、「大和ハウス工業」の新施設「みらい価値共創センター“コトクリエ”」、公共施設「奈良県コンベンションセンター」です。奥村組は創業者が奈良出身であり、「奥村記念館」は創業100周年を記念してこれまでの実績や最新の技術を紹介する施設として建設されました。大和ハウス工業の創業者も奈良出身であり、「コトクリエ」は社員だけでなく専門家から一般市民のあらゆる世代が共に学び、考え、みらいの価値を共創する人財を社会と共に育む開かれた場として創設された施設で、奈良の歴史や素材を空間設計に活かした大きな施設です。「奈良県コンベンションセンター」は、奈良の特徴を空間デザインに活かすため、奈良県産材の木造大型トラスや、奈良在住のアーティストによるインテリアアートや家具が使われています。密に配慮して貸切バスで巡り、全施設とも施設担当者による詳しい案内をしていただきました。

また、大阪中之島美術館での学会向けのギャラリートークや、昨年開催した関西支部学生研究発表会を計画しています。今後、オンラインイベントについては全国の学会員へのご案内が行いやすくなればと思います。

□中国・四国支部

支部長 谷川大輔（近畿大学）

特に報告ありません。

□九州支部

支部長 近藤正一（日本文理大学）

今回は、昨年度に実施しました表彰事業と私が担当した活動事例2件について、ご報告いたします。

■日本インテリア学会 九州支部 支部長賞

日本インテリア学会九州支部規約 第16条（支部長は支部会員（正会員に限る）の推薦を受けて、特にインテリアに関する成績・活動等が優秀と認められる者を表彰することができる。）に基づき、昨年度末に「日本インテリア学会 九州支部 支部長賞」を5件授与しました。一昨年度に引き続き、まだ2回目の新しい事業ですが、願わくは、九州におけるインテリア学の発展につながることを祈念し、今年度以降も継続していきたいと考えています。以下、順に（大学名）／（表彰対象者）／（授与日）／（推薦正会員）です（順不同・敬称略）。

- ・九州産業大学 建築都市工学部 住居・インテリア学科／長崎・大村湾HUB 構築プロジェクト／令和4年2月15日／諫見 泰彦
- ・九州女子大学 家政学部 人間生活学科／佐久間ゼミグループ（福田 圭成子・渡邊 満帆）／令和4年3月18日／酒井 浩司
- ・日本文理大学 工学部 建築学科／岡田 芽依／令和4年3月19日／近藤 正一
- ・熊本県立大学 環境共生学部 環境共生学科 居住環境学専攻／山口 弥桜／令和4年3月21日／高橋 浩伸
- ・九州大学 芸術工学部 工業設計学科／高橋 凜／令和4年3月24日／平井 康之

■レーザー加工実習・動画制作・作品展

会報第67号の支部だよりにてご報告しました国東時間株式会社 松岡 勇樹 氏の企画による見学会を踏まえ、住居・インテリアデザインコース1年生の演習科目「スペースデザイン」にて松岡氏による指導のもと作品制作および作品展を実施しました。Vectorworksにて作図したデータにより2.5mmのMDFボードをレーザー加工機で切断し、着色したパーツを相欠きのみで立体物に構成する課題です。各自で作品の説明動画を作成し、作品動画上映会・講評会を実施し、さらに学生の企画・運営による展示会を開催しました。発熱して欠席する学生が絶えない不自由な状況の中ではありますが、上級生のアシスタントを導入して班分けし作業を分散化させるなどのコ

コロナ対策を工夫し、無事にやり遂げることができました。入場者総数は二日間で227名となり、学生たちにとって貴重な経験となり、市民の皆さんに大学の取り組みを知っていただく良い機会となりました。



作品動画上映・講評会の様子



展示会場（JR大分駅 アミュプラザおおいたシティ屋上ひろば 表参道仲見世レストスペース）



作品展示の様子

■左官ワークショップ

もう一件、LODO WORKS 江口征一氏によるワークショップをご紹介します。漆喰の基本要素である水酸化カルシウム（消石灰）・海藻のり・水に様々な素材を混ぜ合わせていくことで、色も性質も実に多種多様で表情豊かなテクスチャーが表現できます。数々の芸術的な壁面を手がけてきた左官職人による美しいマチュエルの写真と素朴な言葉によるレクチャーは、学生たちの心に響いた様子でした。学生たちはそれぞれ、色土・藁（わら）・苧（すさ）などでオリジナルの漆喰を練り、鏝（こて）を使って思い思いの表現で鏝絵を制作しました。先に挙げたハイテク機器を駆使した事例とはまるで正反対のアナ

ログな実習授業を、あえて3年生の後期に実施することで、単なる技術ではなく教養としてのクラフトマンシップを涵養させるきっかけとすることが狙いです。できあがった作品は十分に乾燥した後、キャンパスを美しく演出するとともに在学生の教材として利用してもらえよう学内に順次展示していきます。



左官職人によるレクチャー



鏝絵制作風景



鏝絵作品のパネル展示

■事務局より

事務局長 棒田邦夫（金沢学院大学名誉教授）

本年の8月より事務局業務に伊藤千佳様が戻ってこられました。これで会員の皆様にスムーズな対応ができるものとホッとしております。この1年半皆様にはご迷惑ばかりお掛けし大変申し訳ございませんでした。おかげさまで伊藤様が戻ってきましたので、一昨年までと同じ状態に復帰しました。引き続きよろしく願いいたします。

計報のお知らせです。

当学会前会長の高橋鷹志先生が令和4年7月26日、ご

逝去されました。(享年85歳) 故小原二郎先生の後を受け日本インテリア学会の大黒柱として学会を導いてくださいました。

心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

心よりご冥福をお祈りします。

■ 掲示板

特集記事【コロナ禍での「新生活様式」「3密」「ソーシャルディスタンス」に思う】

コロナ感染状況も変化してきています。引き続き投稿を募集いたします。難しく考えず日々の生活で気づいたことを書いていただければと願っております。

投稿原稿の文字数は①または②でお願いします。写真・図面は350文字が使用するとお考えください。

①：1 / 2 ページで1,250文字以内

②：1 ページで2,600文字以内

■ お知らせ

井上 徹 (芦屋大学)

日本インテリア学会の論文報告集・研究発表梗概集が1号から閲覧ができるようになりました

日本インテリア学会発行の「論文報告集」「研究発表梗概集」がアーカイブ化委員会(委員長:小宮容一、委員:井上徹)のご協力のもと、J-STAGEにおいて閲覧ができるようになりました。1号から30号に及ぶ論文を緻密な入力作業により完成していただいたものです。

J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナルプラットフォームで、日本から発表される科学技術(人文科学・社会科学を含む)情報の迅速な流通と国際情報発信力の強化、オープンアクセスの推進を目指し、学協会や研究機関等における科学技術刊行物の発行を支援しています。

【閲覧方法】

J-STAGEへの登録等の必要ございません。すべて無料で閲覧が可能です。

1) J-STAGEサイトからの閲覧方法

J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>)へアクセスしていただき、「日本インテリア学会」「日本インテリア学会論文報告集」、「日本インテリア学会研究発表梗概集」等でサイト内検索をしていただきますと閲覧できます。

2) URL入力による閲覧方法

下記URLをブラウザのアドレス項目に入力。

論文報告集URL <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jasis/-char/ja>

研究発表梗概集URL <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/japaninteriorsociety/-char/ja>

会員の皆様におかれましては、研究の一助となるよう、積極的に有効なご利用をお願いいたします。30号以降の論文掲載については引き続き追加作業ができるように計画しております。

■ 編集後記

広報委員長 棒田邦夫(金沢学院大学名誉教授)

会報第70号をお届けします。一昨年より事務局業務も並行しての業務の中、わからないことだらけで右往左往する毎日でしたが、何とか年2回の発行ができたことは自分を褒めてあげたいです。ようやく伊藤様も復帰していただきこれからは年3回の発行を実現すべく頑張りたいと思っております。よろしくお願いたします。

会報の年3回実現のためにページ数、文字数を厳格に定めて、記事項目もあらかじめフォーマットを決めて進めようと考えています。当初はこのあたりがしっかり決めてあったのですが、いつの間になおざりになったようです。これまで学会の情報発信というと会報しかありませんでしたが、新しいホームページもできるので、会報の記事の一部分をホームページに掲載して

すぐに欲しい情報と確認情報とに分けて会報は確認情報及びインテリアに関わる情報の掲載に努めたいと考えております。

とにもかくにも、会報の位置付けの再確認をしなければと思いを走らせています。

■日本インテリア学会会報第70号(2022.9.28発行)

編集者:棒田邦夫

発行者:直井英雄(日本インテリア学会会長)

広報委員会:棒田邦夫(委員長)、

上野友輝、角田静香、清水隆宏、

仲谷剛史、西岡基夫

e-mail:k-bouda@kanazawa-gu.ac.jp(棒田邦夫)

■事務局

日本インテリア学会 事務局 伊藤千佳、棒田邦夫

〒920-0941 石川県金沢市旭町1-25-25

電話:080-2386-5652 FAX:076-224-8186

e-mail:jimukyoku@jasis-interior.jp